

## 理学部を去るに当って

加 辺 章 夫 (植 物 園)

大学に残って仕事をする夢が破れて、東大の植物園なら出来るだろうとの安易な考えから勤め始めたのが、真夏の盛りの昭和28年8月10日でした。

当時の園長は、植物形態学の小倉謙先生で花卉学を少しかじった程度の私には大き過ぎる存在でした。

まだ戦後の残っていた時代で、植物学教室で総長と呼ばれていた高野さんの御一家など4世帯が住んでおられました。

当時は園芸部と呼ばれており、8名で他に草刈りを主とした臨時の人が4名程で手作業でしたから能率も上がらず草ぼうぼうの時代で、当園の看板の分類花壇も形が出来て来たところで、温室も現在の半分程度でしたが、歴代の園長、先生方の

御努力で人も増え、設備等も充実し現在の様になって来ました。

また、研究室は、植物分類系の前川研で、旧制の大学院生と、新制のマスターコースの方々が一緒に研究しておられ、埼玉大の学長の竹内先生が当時助手を務められて居り、若い我々は色々とお世話になりました。また、院生の方々からも刺激と、分類学の勉強をさせて頂きました。

前園長のお蔭で、岩槻研のスタッフに加えて頂き、念願の仕事が出来、形になった事は多くの方々のお蔭と感謝しています。

理学部を無事に去るに当り、皆様の御健勝と御発展をお祈りします。